

令和 3 年 2 月

吉村純子 学位論文審査要旨

主 査 松 浦 治 代
副主査 片 岡 英 幸
同 萩 野 浩

主論文

Relationship of physical activity to self-care agency and physical condition among older adults in a rural area

(地域高齢者の身体活動とセルフケア能力および身体状態との関係性)

(著者：吉村純子、谷村千華、松本浩実、徳嶋靖子、井上和興、朴大昊、萩野浩)

令和 3年 Yonago Acta Medica 掲載予定

参考論文

Self-care agency, lifestyle, and physical condition predict future frailty in community-dwelling older people

(地域高齢者の身体的状態、自己管理能力、生活習慣はフレイル悪化を予測する)

(著者：谷村千華、松本浩実、徳嶋靖子、吉村純子、谷島伸二、萩野浩)

平成30年 Nursing & Health Sciences 20巻 31頁～38頁

審査結果の要旨

本研究は地域高齢者における身体活動の種類とセルフケア能力、身体状態および基本属性との関係性を検討したものである。その結果、身体活動を行っている高齢者はセルフケア能力が高いことが示された。コレスポネンズ分析の結果、年齢、性別、セルフケア能力の違いを問わず、ストレッチ、ウォーキング、ラジオ体操は多くの高齢者が実施していることが示された。また、75歳未満の高齢者は強度の高い身体活動、75歳以上の高齢者は集団で行う身体活動、セルフケア能力高値群は地域サークルを好むなど、年齢、性別、セルフケア能力によって好まれる身体活動の特徴に違いがみられた。本論文の内容は、地域高齢者に身体活動を推奨する際には、年齢、性別、セルフケア能力にしたがって、一人で簡便に取り組めるもの、集団で行うもの、運動の強度など、個々の特性に応じた身体活動の選択の必要性を示したもので、保健医療分野で明らかに学術水準を高めたものと認める。